



# 新年新望



昭和二十七年一月

# 芦屋市弘報

所門蔵刷 市左増印 役エ印 市急 芦園阪 所人入所 発行人 印刷 毎月一回廿日發行

## 年頭の辞

市長 猿丸吉左工門



昭和二十七年の年頭に当りまして新年の御祝詞を申し述べ皆様の御隆昌をお慶び致します本年は愈々国民待望の講和條約が発効して

新生日本が独立国として世界各國の間に伍して行くわけであつてお互いに御同慶の至りでありませぬ。然し乍ら私達は今徒らにこの喜びに浸つてのみいることは出来ないのでありまして、国内的には経済、政治、社会等の各方面に亘り早急に解決しなければならぬ問題が山積してあります。又眼を外に転ずれば、國際形勢はますます複雑怪奇であつて、米ソの対立、朝鮮休戦問題を許さぬものがあります。私達は此等内外の諸問題をよく認識して、真に自主的で民主的な国民として恥かしからぬ公正な態度をもつて進むべきことが何より肝要であります。

トし、近く工事を起すこととなつています。今更申すまでもなく墳墓を修めるといふことは、祖先崇拜、延いてはわが国民道徳振作の大本でありまして、これあつて初めて世道人心は安定立命を得るといふべきであります。殊に墓地の整備不十分の状態に於ては都市發展は期し得ないのでありまして、文化住宅都市に適わしい近代的な公園式墓地を建設せんとするもので、之は不肖独りの希望でなく、多数市民各位の御要望に副う所と信じます。

この他、國際文化住宅都市としてぜひとも実現を図らなければならない諸問題は数多く存在しているものでありまして、これら諸計画の遂行は海に容易ならぬものがあるものであります。就中諸事業を裏付ける財源を何処に求めべきかは実に重大案件でありまして、慎重に勘案して万全を期したく存じているところであります。それについて私の常々痛感致しておりますことは現在特別都市の指定をうけている全国十八都市が夫々法律上の特典を享受されていながら個々別々に動いている現状なので、その政治力は遺憾ながら微弱である。これは如何にしてもか、同じ立場にある各市が打つて一丸となり、以て政治力を強力に結集して、中央に対する折衝や相互の連絡を密にするということが、まことに必要不可欠の道だと存じます。かゝる見地からしまして、これら特別法制定の各都市に呼びかけて近く全國特別都市連盟の結成を提唱せんとするものであります。

新春を迎えて、私の抱懐している抱負の一端を述べ、決意を披瀝した次第ですが、何分これら大事業は偏に市民各位の御理解と御協力にまたなければ到底その成果をあげることは出来ません。市民の皆様、何卒微力なる私を御鞭撻下さいまして、五万市民が一致協力して、わが芦屋市百年の大計実現に邁進いたしたく念願する次第でございます。

一言もつて年頭の辞といたします。

## 新年を迎えて

助役 内海 清



昭和二十七年の新年を迎え頃には爽やかに一層清々しい気分が致します。本年は海にめでたい講和の年であり又一面多事多難の年であります。従って決意の年と考えます。新日本建設の巨歩を一步賢明に着実に歩まねばなりません。皆様と共に、この新しい年を喜び、一層の緊張を以て送りたく存じます。

さて芦屋市政に於きましてもその例にもれず本年は躍進の年でありまして、昨年二月國際文化住宅都市建設法の施行を見まして、愈々市の進むべき方向も定まりましたからには、本年からそれを基盤にして一步一歩建設に邁進する覚悟であります。

芦屋市として着手したいことは多々ありますが、本市は遺憾ながら物的資源に恵まれていないのであります。たゞ人的資源こそは本市の宝であると思ひます。即ち第一に市民に於ける行政を行いたいと思ひます。

縣立の図書館を誘致致したいと考えます。又将来は美術館の必要も痛感してはいますが市の財政にも限度あること故、これも縣に働きかけて縣立美術館の実現を期したい。

更に進んで第三に各種社会施設についても意をもちなければならぬ所でありまして、それには(1)住宅問題を考慮すべきであります。文化住宅都市を標榜している以上文化住宅の誘致に努力しなければならぬのは固よりであります。

以上数項目に亘り、真に必要欠くべからざるものゝみをあげまして私の決意をのべました次第ですが、市民各位に於かれても私の意のある所を諒せられ何卒御指導と御鞭撻を賜らんことを切願するものでございます。

## 新春の御挨拶

市議會議長 作間 昇



芦屋市民の皆様、明けましてお目出度う御座います。茲に輝かしい昭和二十七年の新春を壽ぐことのできますのを皆様と共に御喜び致したいと存じます。殊に新春は愈々國際的に復活する講和條約発効の希望の喜びと、新生日本の発足を迎えられること、寔に御同慶に存する次第であります。

市議會の一年 昭和二十六年中に市議會は数多くの會議を開いて、いろいろ重要な議案を審議しました。今二十六年中の実績をあけること次の通りです(延日数)

- 本會議 十六日
- 常任委員會 十一日
- 總務文教委員會 二十日
- 民生經濟委員會 十一日
- 警察消防委員會 八日
- 企画建設委員會 十三日
- 總務文教警察消防合同委員會 一日
- 特別委員會 十一日
- 競馬特別委員會 十一日
- 競輪特別委員會 十一日
- 檢閲特別委員會 十一日
- 失業対策に関する請願書處理特別委員會 一日
- 失業対策特別委員會 二日
- 外資導入特別委員會 一日
- 小型自動車競走場設置準備委員會 一日
- 企画建設委員會合同委員會 一日
- 合併問題その他調査特別委員會 九日
- 市並に市議會條例等に関する特別委員會 二日
- 市條例審査特別委員會 五日
- 山手中学工事促進特別委員會 五日

委員 塚谷 留吉 前田 加一郎 大槻町一三 田村 論 打出浜町一〇七

選挙管理委員の改選 市選挙管理委員會の委員の任期が満ちたので十二月十八日の臨時市議會で選挙が行われ次のように決まりました。

委員 齊藤 正一 打出小樋町二七

御存知ですか

市民税(第四期分)と固定資産税(第五期分)の納期をお忘れなく

市民税の第四期分及び固定資産税の第五期分の納期は、一月三十一日となっております。

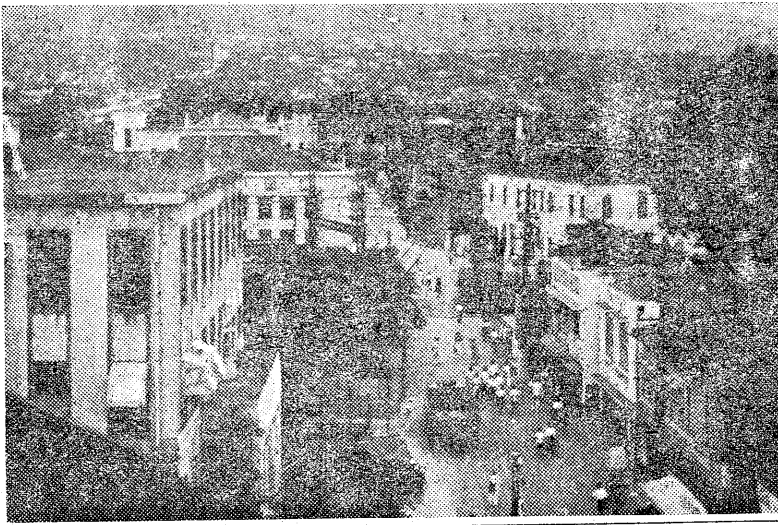
市税に



カードで収入を受取る人があり、何万と言ふ大金で家の造作をした事もあり、プロカーは源泉所得を要しませぬが、市民税はありませぬか。

を發すると共に、督促班を作つて戸々に家庭訪問し、滞納の理由を尋ね直ちに納付する様、市財政の

です。これは文化都市として真に恥しい事と存じます。そこで市民一般に公衆電話を愛する様なきことを周知さして、いたゞきたいと存じます。



公衆電話を愛しましょう

市内の公衆電話の実状を見ますと、実に荒廢して見えます。通話料を聞かぬ、珍しいのは勿論、甚しいのは受話器を引きちぎつたり、料金を破つたり、扉を壊したりして散々のていたらく

ては止むを得ず、これらの市外通話扱を一時停止いたしました次第です。

今年から小学校に新入されるお子様の御家庭へ

この四月から市立の小学校の一年から入学されるお子様の御家庭へ

幼稚園の入園について

真明皇后記念 救らい募金に

Table with columns for dates (1日 to 6日) and amounts, titled '砂糖の特配'.

お買物控え

市内生活用品流通価格 (昭和26年12月15日調)

Table listing various goods such as rice, oil, and sugar with their respective prices and units.

第一に正当な料金を納めて貰えないことです。一体公衆電話

教育委員会 (十一月) 本年度教育費追加更正算見積書(議案71)

園田競馬 (青屋保健所) 一月二日から六日間

募金金額 一世帯当り拾円

砂糖の特配 次を通り正月用砂糖の特配がありますから

砂糖の特配 家庭用・病人用一人当たり〇、五斤家庭用砂糖



昭和26年度上半期

芦屋市のお台所は

市財政事情報告書から

一、まえがき
この一回芦屋市財政事情を公表いたしました。今回は昭和二十六年...

二、収入と支出の状況
市勢の振興発展に伴う公共施設の充實拡張、行政事務の輻輳による諸経費の増高は必然的現象でありまして、市の財政需要額は年々膨張の一途を辿つてお...

昭和26年度一般会計予算 昭和26年9月30日現在

Table with columns: 歳入之部, 歳出之部, 科目, 現計予算額, 残額. Includes sub-sections for 市税, 地方交付金, etc.

三、住民負担の状況
市税収入は市財源の根幹であり、市政活動に欠くことのできない原動力であります。本年度においては総収入に占める市税の割合は、前年度に比し四六、六%を占めるに達しております。...

昭和26年度一般会計歳入歳出計算書 (単位千円)

Table with columns: 科目, 予算額, 調定額, 収入額, 支出額, 残額. Includes sub-sections for 歳入之部 and 歳出之部.

市税徴収実績に関する調査 (昭和26.9.30: 単位千円)

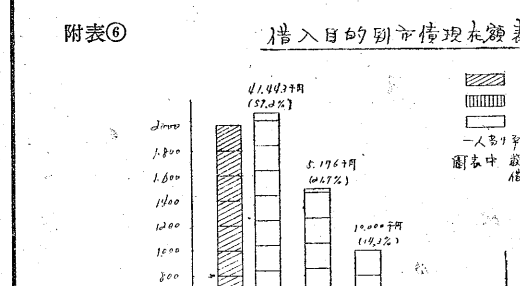
Table with columns: 税種別, 予算現額, 調定済額, 収入済額, 未徴収額, 収入歩合, 備考.

地方競馬費

Table with columns: 開催期日, 開催地, 入場人員, 売上金額, 収益金額, 収益金使途予定.

競輪事業費

Table with columns: 開催期日, 開催地, 入場人員, 売上金額, 収益金額, 収益金使途予定.



市税収入が何と云つても、本市の財政事情をよく御理解下さるべく、御協力をお願いいたします。

昭和二十七年の新春を迎えまして今年にはや  
与謝野寛先生歿後十八年晶子先生十一週年とな  
ります。先生のお世の折の思い出の数々を  
今更の様に憶はれるのでございます。それ  
で偉大なる詩人と謝野先生がこの文化都市芦  
屋に如何なる感情を持っていたかと言ふこと  
と文を御目にかけた筆を執つた次第でありま  
す。

昭和六年八月高野山夏期大学に講演に御西下  
の御帰途八月八日大阪毎日新聞社で講演され翌  
九日午前十一時頃大阪より自動車三台に東京よ  
り同行された歌友達を乗せられ芦屋の私にお  
出でになつたが神戸の歌会に急ぐからとゆつ  
り芦屋で歌を詠んで頂くひまもなく直ちに私  
も同乗させて頂き神戸へ出たのであつたが久々  
に芦屋を見られたと謝野先生ははじめ東京より  
来られた歌友達は沙がきれいだ松が美しいと  
感歎の声のみ出され鶴塚橋よ  
り国道に向う間を自動車の徐行  
を命ぜられ松の姿をふり返り  
り返り見られ汽車が芦屋川の下  
を走るといふことも世にも珍  
しいと話し合つて居られた。

「車より白服の人の出で来れば  
いと濃くなりぬ沙の松かげ」  
と一首寛先生がよんでいら  
る。その時の兵庫縣内務部長藤  
岡氏は明星の古い歌人であつて  
岡先生を神戸に招かれ、此日午  
後より六甲山上瀧川別邸にて歌  
会を催されたのであつたがその  
時芦屋にいらして歌会をして頂  
く時間のなかつたことを私が大  
変残念だと申し上げた時一あの  
美しい芦屋を歌にもせず帰るこ  
とはほんとに残念ですが、その  
うち必ず出直して来ます」と仰  
せられて帰京されたのであつた

昭和八年七月  
岡山に御旅行中であつた先生から三日に神  
戸着の電報あり神戸にお出迎へしてその夜は甲  
子園ホテルにお泊りになられ、翌日西宮高女で  
御講演後直ちに芦屋へお出で頂いた。京都より  
鞍馬寺管長を初め、四国、播磨、出雲、名古屋  
奈良あたりより歌友達みな来られ、西宮高女の  
校長、甲南学園の先生方の外、堺の鳳氏などと  
大変な来会者で晝餐後自動車にて一同芦屋市を  
見、鶴塚、猿丸家のお墓所、天神社など見て帰  
り夕より夜にかけて浜を散歩して歌作にかゝり  
両先生は夜の十二時頃迄筆を執つていられたが  
歌友達は夜半の二時頃火の用心を見て歩いたとき  
歌友達は両先生とこの美しい芦屋に来たといふ  
ので興奮して筆を執つていられた人が沢山あ  
つた。「まだかきでます」と私に声をかけら  
れる人もあつた。翌日午前十一時御批評の時に  
大変な賑ひであつた。午後は打出焼の砂山氏の

## 與謝野寛、晶子兩先生 と 芦屋

丹羽 安喜子

素焼に鞍馬上人が画をかゝれ兩先生が歌をお書  
き下さつてこれをこの日の来会者諸氏に贈るこ  
とにした。たしか三十枚ほど焼いて頂いたと思  
う。十日ほど後に坂口砂山氏が函まで造つて届  
けられ直ちに発送したのであつたが、今でも  
東京、京都その他の諸友達が芦屋の打出焼と大  
切にしていられるのを見ると、昔なつかしくそ  
の後再び芦屋へお迎えする機会もなく寛先生が  
逝かれたのがいつ迄も残念に憶はれる。

津の国に今日あへる友すべてよしいぞ歌はん  
と云へば歌ひぬ  
茶の則を違へざらんも時遅しすでに引かれて  
この室に入る  
茶を賜ふ座に入り来るはをち方の武庫の山風  
近き松より  
猿丸の墓のうへなる山裾の松間に赤し未耕地  
の土

片はしを海に引けるは見えぬと  
も虹わが前の松原を出づ  
淡路消え大和の山の末すこし残  
りて近き海にこり来ぬ  
三つほど芦屋の浜に頬を打ち  
て松のしづくと思はるゝ雨  
行くまに船先上がりぬかの舟  
も志させるは高きなるべし  
月を見て浴衣のままに沙踏みぬ  
磯邊なれども湯の里のごと  
沙にある磯の薄月松のかげ心  
かろく積む夕べかな  
黒き雲しばしば月を過ぐるのみ  
逢ふ人もなし磯の十二時  
かの月の倚るも黒雲ひぢつきて  
我等の倚るも黒き岩壁  
帰りの路の磯の松原くろけれど蔭  
なる沙に月明りしぬ  
浪しろく沙にひろげぬ立つ時の  
己が幅より十倍の白

美しき洋輪の外に誰が子ぞや流れて寄れる板  
にまたがる  
次の屋根武庫をしきれば二階より馬の脊のご  
と山の脊を見る  
磯踏みて帰れば月の落ちんとす黒く涼しく松  
の木の間

津の国の林まだらに夜の明けぬ阿波の船著く  
方はいづくぞ  
白鷺も露も池なる睡蓮もあしたの星にまざる  
なりけれ  
第一の珊瑚の花は乱れたり二三はいまだ海を  
おもはず  
沙羅しろし芦屋の莊の中餐にあるじのたまふ  
燕京の卓  
われはまた海水浴の少年に薫して夏をしたが  
へがたし  
しらすなに松の編みたる武庫那芦屋の里と打  
出の里と

日のかげと競へることく力ある海水浴の黄の  
帽子かな  
海を見てその他は沙を坐したり芦屋の浦を  
われは行けども  
夏の海波と少女は鬪はず戀のあそびに似るす  
がたかな  
沙の壇重きづけり愚かなる沙塔を積むは大人  
なれども  
武庫那松のあひだを幾筋の沙河つらぬきて白  
きなりけり  
芦屋川水絶えし日はしら沙を武庫の山風洗ふ  
なるべし  
沙床に泡の花ほど芦屋川水ながれたりかみに  
のぼれば  
十餘年人事にくらべかはりなし山芦屋はた浜  
芦屋さへ  
橋いくつ同じすがたにかかれどもすでに海あ  
り沙川の末  
夏の日のもとに漢屑の燃ゆるなり総てを焼く  
はこころよきかな  
ひちまくら黒髪のみはうづもれて半身のなし  
沙原少女  
芦屋にて美作の湯の話などする日のなほも三  
日四日ははれ  
松の家喫茶の則の正しきを簾外に見てわれす  
ずしけれ  
わが見し佛の見しも山風の仮の姿の沙羅に  
かありけん  
武庫の山せまらず淡路はるかなりほしいまゝ  
にも浜風の吹く  
尼崎大物浦にけぶり立ち西海に日のしづむう  
みかな  
美しく反りたる虹と見ゆれども半に足らず松  
多ければ  
松原の水色の氣に我等ありも色の氣に武庫  
の山ある  
暫らくは武庫の上なる夕焼を煽れるごとく風  
の吹くかな  
異方の空に虹あり夕ぐれの武庫の山脈あざや  
かにして  
ふるさとの和泉に暗き雲湧きて芦屋に見るは  
紀の国の山  
磯の沙銀の板ほどつめたけれ月隠れても雲を  
出でても  
明るきは避暑地の夏の空しき灯暗く動くは  
海人の三十四  
夜氣重し柳絮のやうに積りたるものと異なる磯  
の沙かな  
和氣に見し二倍の月のもとを行く続ける海の  
津の国の浜  
貸し船の番人の見る夜の浜の天の川をばわれ  
も眺むる  
浪速の灯和田の岬の灯もわれも見る海人ども  
の夜半のはたらき  
少くも家を思はぬ身ならねど静かならざるむ  
ら雲の月  
三更の芦屋の夏の雨晴れて音あるばかりうご  
く黒雲

七月の芦屋の浜の夜に立てば和泉はくらし他  
界のやうに  
月のもと大馬と見し川尻の防波堤にもいたり  
けるかな  
ふるさとの貧しき灯あり明滅す夜の海のはて  
最も遠く  
川じりの防波堤なるうちがはに潮の音きく芦  
屋の月夜  
月見草和田の岬の燈台とはすかひに行き磯の  
道かな  
沙川と松のあひだの一筋のつつみは向ふ武庫  
山の灯に  
松原は夜に行く川の堤より低しわりなし藻の  
こちする  
大阪は思へるよりは暗きかなそのこととなく  
磯見よ見れば  
落踏み帰れる人が夜中まで沙のテラスに語る  
夏かな  
脚の氣の薬を賜ふ沙二町月夜に踏みてかへり  
きたれば  
簾ゆえ二三日まへの美作の旅のまくらを思ふ  
夜となる  
階前の沙の幽かにふくらめど松しづくする夏  
のしのめ  
武庫の山朝のひかりを盛れる時松風吹きぬ高  
窓の中

昭和十一年五月十五日  
私のつらぬ歌集「芦屋より」を出版した時  
先輩歌友達が大阪で出版記念会を催して下さつ  
た。晶子先生は早速東京より石井柏亭画伯と  
もに御列席下さつた。その時御令息与謝野秀氏  
の夫人とともに芦屋へお泊り下さつた。  
上梓の賀ありと我らのきてあへる芦屋の邸の  
初夏の雨  
一昨年の津波の後に住みつきし木の若葉する  
芦屋邸かな  
あさましく津波に逢ひし浜家朽ちくらべられ  
けり不運の身にも  
写真師のうしろに松の花粉散る五月の雨のい  
ささかのひま  
と詠まれて帰京された。

昭和十五年四月二十二日  
東京より晶子先生は御令息夫人二人と令嬢達  
の外歌友四人とつれて芦屋へ御来遊下さつたの  
で京阪神播州四国出雲より歌友集り芦屋へ一  
泊翌日六甲有馬須磨を経て二十五日芦屋に帰ら  
れ六甲須磨へ御案内し親玉塚を拜して古典のお  
好きな晶子先生は非常にお喜びになつていらし  
た。ただホテルではみな短冊色紙など持つて先  
生に御揮毫を願はれそのため芦屋のお歌をお詠  
みになるひま少なく惜しいことをしたと思ふ。

七月の芦屋の浜の夜に立てば和泉はくらし他  
界のやうに  
月のもと大馬と見し川尻の防波堤にもいたり  
けるかな  
ふるさとの貧しき灯あり明滅す夜の海のはて  
最も遠く  
川じりの防波堤なるうちがはに潮の音きく芦  
屋の月夜  
月見草和田の岬の燈台とはすかひに行き磯の  
道かな  
沙川と松のあひだの一筋のつつみは向ふ武庫  
山の灯に  
松原は夜に行く川の堤より低しわりなし藻の  
こちする  
大阪は思へるよりは暗きかなそのこととなく  
磯見よ見れば  
落踏み帰れる人が夜中まで沙のテラスに語る  
夏かな  
脚の氣の薬を賜ふ沙二町月夜に踏みてかへり  
きたれば  
簾ゆえ二三日まへの美作の旅のまくらを思ふ  
夜となる  
階前の沙の幽かにふくらめど松しづくする夏  
のしのめ  
武庫の山朝のひかりを盛れる時松風吹きぬ高  
窓の中

昭和十五年四月二十二日  
東京より晶子先生は御令息夫人二人と令嬢達  
の外歌友四人とつれて芦屋へ御来遊下さつたの  
で京阪神播州四国出雲より歌友集り芦屋へ一  
泊翌日六甲有馬須磨を経て二十五日芦屋に帰ら  
れ六甲須磨へ御案内し親玉塚を拜して古典のお  
好きな晶子先生は非常にお喜びになつていらし  
た。ただホテルではみな短冊色紙など持つて先  
生に御揮毫を願はれそのため芦屋のお歌をお詠  
みになるひま少なく惜しいことをしたと思ふ。

狛山をゆく  
松原に柳の添ひて路いたる芦屋の浜の防波堤  
まで  
大阪の港の役所山吹の垣結ぶごとし海の上の  
灯  
遠くして夜光の貝に紛れたるものもあるべし  
浦のともし灯  
春の灯の麗しき夜の二更にて蛙鳴くなる山芦  
屋かな  
と詠まれ翌日より京都の橋立などへお伴して  
御帰京後五日目に腦溢血にて病臥され翌昭和十  
六年五月に御逝去されたのであつて芦屋が最後  
の吟行のお旅となつたのである。芦屋を御出立  
の際「先生の御歌碑を芦屋へ建てたいと思ひま  
す」と私が申し上げたとき「あの松原へ」とほ  
ゑまれ「それではまたそのうち芦屋へよせて頂  
いて立派なものを詠まなければなりませんね」と  
仰せられたのがこの時が最後になるふと晶子  
先生も私達も思はなかつたことである。今日迄  
御在世ならば文化都市としての芦屋の歌でも詩  
でも沢山詠んで頂くのであつたが私は思へば  
思ふほど淋しく残念に思う次第である。  
(松浜町在住、関秀歌人)

市は只今どんな土  
木工事にかよつて  
いるでしょうか？  
皆様が常に關心を持  
つて居られる市の土木  
工事は現在の様な状  
況です。  
◎阪急芦屋川駅南(市  
道第二二二一線)護  
岸工事並びに危  
険防止工事  
工費一六〇、〇〇〇円  
完了(路面嵩上及び舗  
装工事は逐次施工の予  
定)  
◎芦屋特別都市計画、  
海岸堤防復旧対策事  
業(平田町海岸)  
事業費五、一八六、一七  
〇円(出来高九〇パー  
セント)五島組施行中  
◎水保橋床板架替工事  
(兵庫縣施行中)  
◎川原橋上並びに継  
足工事(建設省委託  
施工中)  
◎東山町水路改築工事  
延長一八九米工費一  
九六、〇〇〇円(市  
直営施行中)

好成績の越年  
三大運動  
旧暦の十二月、芦  
屋市が展開致しました  
「納税」「愛」「供米」  
の越年三大運動は皆様  
方の絶大な御協力を得  
ました。

| 品目  | 数量  | 対象 | 配分法備考          |
|-----|-----|----|----------------|
| 衣料  | 五六  | 要人 |                |
| 食糧  | 三三  | 三人 |                |
| 日用品 | 三三  | 三人 |                |
| 学用品 | 三三  | 三人 |                |
| 計   | 一五九 | 三人 | (18本) 54升ケ 32ケ |

一、供米運動  
先月号に既に御報告  
致しました通り、縣下  
供出のトツプを切つて  
十二月十七日に一〇〇  
%供米を完遂致しまし  
た。